

★校内研だより★

2024.9 文責 ○○

【第3回校内研究全体会：2年1組（○○教諭）国語「どうぶつえんのじゅうい」研究協議のまとめ】

○○先生、夏休み前から様々ご準備、当日の授業提案ありがとうございました。

○成果

- ・子どもたちの一生懸命に考える姿
- ・子どもたちが前向きに学習に取り組む姿があった
- ・意欲的な子どもの姿がたくさん見られた
「じゅういさんがしたこと、まず書いて」
- ・視覚的支援の積み重ね

○課題

- ・目指す児童の姿を意識した教師の声掛け
- ・教材の魅力を引き出す
- ・情報量の精選
- ・単元や次時に今日の課題がどうつながっているのかのイメージをもてるという
- ・子どもにどのような力を積み重ねていくと学びあえるのかを考えたい

成果で多く挙がっていたことは子どもたちが意欲的に取り組んでいたということです。子どもたちのやりたい思いに気づき、単元計画を修正し、調べたい動物について資料をもとにして考える活動としたことが意欲的に取り組めた要因の一つだったのではないのでしょうか。前回、指導助言者からお話いただいた『「主体的な学習に取り組む態度」に通じる問題解決的な学習行動は、まずは子どもと一緒に相談、選択をしてつくっていくことが、主体的な学びにつながる』という部分と共通したところがあると思います。そして何より日頃の○○教諭の関わりや学級での生活の一つひとつの積み重ねから安心感が醸成されて子どもたちは素直な姿で学べたのでしょうね。ワークシートの例示や情報内容ごとの色分けの支援についての書き込みも多かったです。

また、校内研のみなさんの振り返りのスプレッドシートにもあったように教師が答えを教えるのではなく、子どもたちが自分たちで答えを導きだすための活動の時間があり、長く時間が確保されたことで裏面にあるような子どもたちの学習自体への意欲的な姿、学習内容への意欲的な姿をそれぞれの先生の視点から共有できたことも校内研究の研究としての前進につながったと思います。

課題で多かった内容は、「情報の精選」と「学習課題の目的と今回の学習内容への意識」でした。情報が多かったのではないかという意見です。グループ協議の中でも出ていましたが、「編集をして子どもたちに取り組みやすくする」という考えと「編集をせずに本物の情報を丸々そのまま子どもたちが出会う機会を作る」という昨年度の指導助言者からのアドバイスを受けて、ブロックで様々な検討を重ねた上での選択だったようでしたが、研究としても悩ましいところですね。

また、「学習課題の目的と今回の学習内容への意識」は、何のため（ミッション）の活動なのかがわかることで、より主体的に学べるのではないかということです。何のためかが分かりにくくなると、どうしてもその時に出された課題を正確に求めることに子どもの関心に移りやすく、失敗をなくそうとするなど学びあい高めあう姿とは逸れていってしまうのではないかという意見でした。（普段はいない沢山の先生が見ているので失敗したくない気持ちがわくのは自然なことだとは思いますが）

今後の授業で生かしていきたいこと（前回）

- ・授業づくり（単元づくり）
- ・子どもの学び、興味関心



クラスの流れを教師が意識

系統性 （１）学問

（２）子どもの思考



今後の授業で生かしていきたいこと（今回）

- ・本時における目指す児童の姿とは？
→単元づくり、単元計画
- ・子どもの実態に応じ、子どもの想いを
大事にした単元づくり

これらなどを意識して取り組んでいけるとよい

※座席表の活用については、研究の中で引き続き検討していきたい。

「学びたい」の興味 ・単元全体を通しての「時間目」にどう子どもと教材が出会えばよいのか ・子どもが「学びたい」と思うようにするための工夫 ・現在の子どもの興味はどこにあるのか

見とり ・校内の先生の日常の子どもを見とる手段を知りたい ・一人ひとりの見とり（本当の想いや願い）

授業の具体 ・板書計画をどんな風に考えているのか ・本時の終わり方は ・ノートづくりの仕方は

子どもの主体性と支援のバランス ・「支援を必要とする子どもたちへの配慮」と「主体的に学習を進めていける子どもたち」の両立の難しさ ・話し合ってばかりいないか？どこまで任せるか？
--

学びにくさ・みんなで学ぶ ・学びにくさには訳がある→インクル的な学びのコツは？ ・話すことに抵抗がある子への手立てはどうすればいいか ・教室を安心感でいっぱいにするためには？ ・小林先生の授業映像の時代に比べて、今は教室でみんなで学ぶための土台が揃っていないように感じる。みんなで学ぶ土台とはどのようなものか考えたい ・クラス全員が同じ学習課題に対して興味をもって取り組むことは可能か。
--

子どもたちで発言しあう授業の手立て ・子どもたちだけで発言、子どもたちがつなぐ学習を行うにはどう指導すればいいのか ・どのように発表や意見を出せるようになるための過程を知りたい ・教師が相談役＆板書に徹せられるようになるには（どれ位の時間で集団として育つのか） ・話型（聴型）は発達段階（学年）に応じて、どこまで指導していますか ・聴き手の育て方は ・それぞれの思いの違い（合意形成にまとめる難しさ）をどうしていくか
--

校内研だよりにまとまっていた前回の指導助言者の講話を受けての私たちの不安や疑問を改めて掲載しました。そして、今回のグループ協議に貼られていた付箋を（少し強引ですが）4つに分類してまとめました。今回の授業提案の成果と課題を考える上で一つの参考にしていただけたら嬉しいです。

「学びたい」の興味（学習自体への意欲）	「学びたい」の興味（学習内容への意欲）	子どもの主体性と支援のバランス（子どもの活動）	子どもの主体性と支援のバランス（教師の支援）
・「難しい」と言いながらよく考えていた ・線を引くという課題を意識して引こうとする ・積極的に「しごと」「わけ」「くふう」を探していた ・教科書をすぐ開く ・「紙は？」と早くプリントをほしがる ・何回も何回も文章を読む ・「答え教えて」 ・「たぶんちがうけど…」となんとなくちがう気持ちも表現していた ・人の意見に対して「たしかに」 ・うなずいて伝える ・「ここじゃない？」にうんうん ・「ひらめいた！」 ・みんなが見やすくなるような資料の置き方の工夫をしていた ・「誰がリーダーやる？ぼくでいい？」 ・「まだ” 仕事” しかできていない」学習進度	・「ここ、書かなくてもいいんじゃない？」 ・「～ため」と根拠をもって考えていた ・「～ので」「～のです」の言葉にこだわる姿 ・「ワラビーで～だったから、ここも工夫だよ」 ・「” どうやって～するか” だからここも工夫だよ」 ・最後の一文（青、途中から黒）こだわり線引き ・調べたい動物を選べる学習計画によって意欲的に関われた ・今日のめあてが子どもたちにおちていたのか ・言葉探し（動物の魅力）＞獣医さんの魅力？ <u>何のため（ミッション）の活動なのか</u> <u>がわかることでより主体的に学べるのではない</u> 何のための活動かというより「間違えないように正解にしたい」という子どもたちの気持ちが出ていたのではないか。（沢山の大人が見ているのでそうなりやすく当然なのですが…。）	・考え方の順序が定まっていなかった 「わけ」→「工夫」→「仕事」 ・ワークシートの記入が前時から同じ流れで組めるとよい ・「私は〇〇だと思うけど、どう思う？」のような教えあうための話型の指導があるとよい ・「視写」が大事な学習活動になっていた - 原文を改めて音読しながら書き写していた ・内容理解の学び方の一つとして 「音読」→「線を引く」→「ワークシート記入」などの流れの経験を積み重ねていくのはどうか ・教科書の内容がきちんと理解できていたか、そのためにはどんな学習活動が必要になるのか	・情報量が多すぎたのではないかと。 ・教師がわかりやすく編集してもよいのでは。（昨年度の指導助言者からの取返して編集せずに本物に触れる意義との葛藤） ・ゾウでの例示があったことで 「からです」「のです」「だからです」「ためです」などの板書を参考にしながら考えていた ・線を引く色と掲示物が同じ色がわかりやすい ・ワークシートの大きさの個別対応 ・「わけ」が、仕事のわけやくふうのわけがあったて難しいところがあった ・活動のパターン化があることでの安心感 ・例示物の大きさや色への対応がもう少しできるかも